

おお大勝利

平成 23 年度山東サッカー部報第 13 号 (7 月 31 日)

サッカー部保護者の皆様、OBの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

新チーム Y1 勝ち点初ゲット

7 月 30 日 (土) べにばなスポーツパーク第二運動広場 (人工芝) にて、Y1 第 10 節山形城北戦が行われました。晴れ渡っているもののサラッとした程良い気温の午前、少し暑くなってきた午後、というサッカー日和の日に 14:00 キックオフで試合が行われました。相手は山形城北、現在までのところ Y1 全 8 チーム中 6 位と 7 位のチームの対戦。自動降格の 7 位 8 位に入りたくない両チームの、裏天王山の決戦となりました。この試合を除いてあと 5 節あるものの、直接対決の勝ち点はとても重要。モンテディオ山形と同様、降格争いを強いられている山東が、先輩方の守ってきた県 1 部の座¹を守ることができるか、気合の入る一戦となりました。しかし、白熱した東海 - 山商戦 (12:00 ~) を見ながら遠巻きに山形城北のウォーミングアップを見ていると、「新チームの山形東恐るに足りず」の余裕の雰囲気を感じられる。「ちくしょう！ 気合の入っているのは山形東だけか、勝ってやる！！」の思いが深くなる。その思いを選手に伝えて、選手をピッチに送り出す。ベンチの裏には柳谷校長の姿も見え、天覧試合の様相。清野 OB 会長、奥山副会長もベンチ入りし、ベンチ外には工藤先輩 (山東 11 回卒) そして後藤報道局長など、豪華キャストでこの重要な一戦を見届けて下さる。「さすが校長先生、この試合の意味を分かっているっしょ！ (のかな?)」という、応援されるうれしい気持ちになりながら、キックオフを迎える。

山東キックオフで試合を迎えるのだが、いつもはサイドの前方にボカッと蹴り出し、サイドの選手が全然それに追い付かず、相手へのパスになることがほとんどただだけに、「そろそろ学習してくれないかな～」などと思いながら笛を聞くと、ゴメが中央をドリブルで駆け上がる。「相手にパスもバカだけど、キックオフから中央をドリブル突破で狙うのもうまくいかないんだけどな～」と全く期待せずに眺めていると、ショートパスが 2、3 本つながり、ヨシタカの狙いすました縦パスから中央にいるゴメに再びボールが渡り、あっという間に GK と 1 対 1、そしてそれをゴメが冷静にコントロールシュートでネットを揺らし、開始 15 秒で山東先制！！！！ 城北の油断に付け込むこれ以上ないという形の立ち上がり。その後も左サイドハーフのリクの突破や、FW ナオトのトリッキーなドリブルから押し気味に試合を進める。しかし、徐々に城北が

¹ とはいうものの、ショウタからさかのぼること 4 代前のカオルの代に、1 部しかなかった県リーグ戦への参加決定戦に確かユウイチの得点で勝利し参加が決まってから、今年で 1 部は 4 年目でしかなく、そして、初参加のキジマの代 (3 代前) では 8 チーム中 8 位でしたが山形 FC ユースがリーグ戦離脱、モンテユースがプリンスに昇格したことからビリなのに残留した、という過去もあります。コウスケの学年 (2 代前) でそこそこの成績を上げたくらいで、これまで山形東にとって県リーグは、苦しい戦いとなってきました。

冷静にボールを運び始め、山東 DF と MF の間のバイタルエリアを有効にを使って、押し込み始める。前半の後半は城北優勢。特に要警戒の城北のセットプレーを何度も浴び、ヒヤヒヤしながら時計ばかり見てしまう、そんな試合展開。山東は、クリアが中途半端で、パスするでもないが大きくエリアを奪回するでもなく、相手に拾われてしまうことが多い²。また、せっかくパスがつながっても、トラップミス等ですぐ相手にボールを渡してしまふ。得点が早くに入り過ぎるとその後、守り切ろうとする意識が働くのか受け身になりやすく、それはそれでやっかいなのだが、故障明けすぐ先発された GK サカグチのファインセーブもあり、前半をなんとか 1 - 0 のまま折り返す。

後半は、キャプテンにしてボランチで先発したショウタが故障によりベンチに下がり、代わりに山東が誇る二人の左利きのうちの一人マンサクが左サイドハーフで投入される。後半の試合展開も、前半の後半のように、どちらかというとな城北ペース。山東は、ゴメも疲れが見え、ナオトもトラップミスが目立ち、ハムが攻撃面で本調子じゃなく、攻撃では苦しい状態。リョウ、ウスバの CDF だけでなく、ヤマト、ヤグチの両サイドバックが相手に仕事をさせずに踏ん張っているの、何とか試合が持っている印象。とはいえ、城北も決定機を作っているとは言い難く、試合は膠着状態。そんな中、山東ゴール方面の裏のスペースに蹴られたロングボールの対応を CDF が誤り、相手に先に体を入れられてしまい、GK との 1 対 1 となるシーンを作られてしまう。その選手と後ろから走ってきた CDF が交錯してしまい、当然主審の笛が鳴る。「なぜ（後方に蹴られたボールへのダッシュで）緩む！」と叫んでいた顧問今野は、「PK だ」というベンチのつぶやきを落胆の思いで聞く。しかし！！ 主審はペナルティエリアぎりぎりの FK の指示。当然相手ベンチ・選手は主審に詰め寄る。山東サイドはもう観念しているだけに、「あとはよしなにして下さい」の心境。主審の判断は覆らず、FK となり、蹴られたボールは山東ゴールマウスを外れて事なきを得る。やれやれ、と胸を撫で下ろした直後、相手バイタルエリアでちょこまかやる山東の行き当たりばったり攻撃が運良く炸裂し、途中交代のマンサクが左サイドを抜け出し、試合を決定づける追加点を決める。その後ユウタロウ、ギャン（カン）が途中出場。結局、ヒヤヒヤものでしたが何とか城北の攻撃をゼロに抑え、2 - 0 で裏天王山勝利、新チームで初の勝ち点ゲット（しかも 3 ゲット）いたしました。

もう少しバイタルエリアを使わせない CDF とボランチの連携した守備が必要でしたし、攻撃ではトラップミスが多かったり、縦に走る選手が重複する場面が目立ったりと課題は多かったのですが、この勝利を素直に喜びたいと思います。皆様応援ありがとうございました。これからは、しばらく公式戦はなく、夏休みの強化期間に入ります。この夏、頑張ってもう一回り大きくなってきます。

8月2日～5日 苗場グリーンカップ第1次 宿泊先：苗場スプリングホテル
（新潟県南魚沼郡湯沢町三国 184 Tel 025-789-2804 Fax
025-789-2882）

8月11日～13日 月山合宿 宿泊先：月山の宿 かしわや
（山形県西村山郡西川町月山志津温泉 Tel 0237-75-2223）

² とはいえ、CDF リョウは、ヘディングの対応等、安定度が以前より増しました。もともと、フィジカル能力が高いだけに、それを使いこなすことができれば、もっともっと安定した仕事ができるでしょう。